

目指す学校像	一人ひとりの多様な幸せを大切にす学校 ～予測困難な時代を生き抜くためのエイジェンシーの育成～
--------	--

重点目標	1 基礎的・基本的な学力を児童に定着させ、授業における主体的・対話的で深い学びを実現する。 2 地域との連携・協働により学校課題を解決するコミュニティ・スクールを実現する。 3 計画的な予算運用と定期的・臨時的整備により安全な教育環境を実現する。 4 人事評価を活用した人材育成と、職員が心身を健康な状態に保つことができる職場環境を構築する。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価			実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査の結果、国語では「情報の扱い方」が特に高く、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が低い。また、算数では「データの活用」が特に高く、「図形」が低い。 ○課題に対して自分の考えを進んで伝えようとする児童が多い反面、論理的に話をまとめたり、話し合いから考えを深めたりすることが苦手。 ○学校評価アンケートにおける「基礎・基本の定着」で肯定的回答の割合が94%である。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果から、特に国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」や算数の「図形」において、基礎的・基本的な事項を確実に習得させる必要がある。 ○考える場面や、考えを伝え、他人の考えから自らの学びを更に深める主体的、対話的な学習の展開を工夫する必要がある。	・学びの自律化の基礎となる基礎的・基本的事項の定着 ・学びのポイント「じ・し・や・く」を中心とした主体的、対話的で深い学びの授業実践	①学習への取組状況を基に学習相談を実施し、児童が具体的な目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査の結果を情報端末上のシートに入力することで、自らの学習状況を把握できるようにする。 ③学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による研修を受けることで、より効果的な手立てを設定し、児童の基礎・基本の定着を図る。	①自己採点の結果をもとに、児童が自らの学習状況をつかみ、目標を立て、行動できるようにしたか。 ②調査結果の分析結果や市教委による研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを設定し、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」算数の「図形」の正答率を80%以上となったか。 ③学校自己評価の「基礎・基本の定着」に係る項目で肯定的回答が94%以上となったか。	①学校研修課題である学びのポイント「じ・し・や・く」を日々の授業の展開で実践することができたか。 ②「学びの指標」アンケートの「主体的」「探求的」項目の平均値が3.5を超えることができたか。				
2	〈現状〉 ○学校運営協議会で自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を、地域全体で育てていくという目標を共有した。 ○学校の多様な課題から、家庭や地域に関する課題は、学校運営協議会で解決策を熟議することとした。 ○学校評価アンケートにおける「開かれた教育」の項目で92%の肯定的回答を得た。 〈課題〉 ○コミュニティ・スクール2年目を終え、共有した課題を学校・家庭・地域が「教育の当事者」として検討することができたが、方針決定において教育を受ける主体である「児童」を何らかの形で参加させていきたい。	・児童の課題を学校、家庭、地域が三位一体となって共有し、解決する体制づくり	①学校運営協議会を開催し、地域や家庭が関わる教育課題について、熟議を通して改善策を提言する。 ②学校ホームページ内に、新たに学校運営協議会及びSNSの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ③学校行事等について、学校に関わる人々が参観できる機会を確保し、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。	①学校運営協議会を年3回と、必要に応じて作業部会を開催し、熟議を通して、改善案を2つ以上提言できたか。 ②学校自己評価の「開かれた教育」に係る肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ③学校ホームページにおいて、新たに学校運営協議会及びSNSの情報を発信するページを作成し、発信することができたか。					
3	〈現状〉 ○IGAスクール構想の推進に伴う必要な教育備品として、各教室にプロジェクター投影用のスクリーンを配置した。 ○施設・設備の瑕疵による児童のけがが1件発生したが、迅速に対応して原因を即日排除した。 〈課題〉 ○開校59年目を迎え、校舎の建て替えを含む大規模修繕が計画されており、施設設備の補修に関しては検討しながら進める必要がある。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実にだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが必要である。	・施設設備の安全の確保と健康の維持に主体的に取り組む児童の育成	①教育活動に必要な備品について、予算会議をもとに健康と安全性の確保の観点で予算を確保し、施設設備の補修を進める。 ②安全点検、日常巡回をもとに施設・設備の瑕疵を発見後12時間以内に復旧もしくは復旧計画を示す。 ③体育、図工等のけがの発生率の高い教科指導の他、日々の教育活動を通して安全意識を高める教育を進める。	①学校自己評価に係る教員・保護者アンケートにおける学校の施設・設備の安全に関する項目で、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校瑕疵によるけがが発生した場合、当日中に再発防止のための臨時的対処ができたか。 ③学校自己評価の「健康と安全を意識した行動」に係る項目で、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。					
4	〈現状〉 ○ICT機器の活用と、教科担任制の導入による教材や資料の共有、効率化を進めた。 ○人事評価を活用し、個々の教員のキャリア段階に応じた指導・助言を進め、指導力と資質を向上させ、「学びの指標」のアンケートでは平均3.2ポイントを獲得した。 〈課題〉 ○ICT機器の導入から定着を経て「いろいろ試す」段階から「効果的に使う」段階に実践が移行してきている。 ○高学年における教科担任制を持続可能で安定した体制にするために、教育課程の編成や教員の専門性の育成、児童情報やよい授業のイメージを共有する体制づくりが課題である。	・教職員の資質の向上による一人ひとりの多様な幸せを大切にす学校の構築	①個別最適な学びを充実させる有効な手段として、研修を通して教員が授業の中でICT機器を活用できる能力を高める。 ②人事評価を通して各教員の専門性や特性が活かされているか検証し、次年度の指導体制づくりに活かす。 ③高学年の教科担任制実施による勤務時間外の在校時間の変化を検証し、3学期までに改善案を策定する。	①年2回実施される「学びの指標」アンケートの「ICT」分野の結果について、1回目の平均値より2回目の平均値の方が向上しているか。 ③人事評価面談を通して、全ての教員が自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、結果として80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ③3学期までに、令和7年度の教科担任制の具体的な改善案を策定することができたか。					

